

「国際貢献」分野

- 1 目的 アフリカからの研修員との交流を通して、お互いの共通点やアフリカとのつながりを見つけることで、親近感を持ち、アフリカからの研修員の考えや夢に触れることで、今の自分を振り返り、自身の将来について思いを馳せる。また、お互いの文化や物事の捉え方の違いに気付き、地方創生をテーマとした課題研究における課題発見とその解決の糸口とする。
- 2 日時 平成28年6月22日(水) 13:10~15:30 [A週65分]
- 3 場所 会議室、資料室、研修室(丸亀高校セミナーハウス)
- 4 参加者 1年生「国際貢献」分野選択者67名(男子17名、女子50名)、教員3名
JICA研修員5名(アフリカから香川大学農学部へ)、JICA職員1名
- 5 内容等

アフリカからのJICA研修員5名を招き、研修員との交流を行った。まず、会議室にて、「研修員の方々からの自己紹介」「JICAの事業の紹介」が行われた。続いて、全員で、アイスブレイクとして「仲間探し・グループづくり」を行った。その後、会議室と研修室で、グループに別れて、「研修員による自国の紹介」「生徒からの質問」等を行った。

生徒は、研修員からアフリカでの文化や生活についての話を興味深く聴き、質疑応答を通して、文化や考え方の違いを知るとともに、日本についての認識を新たにすることができた。さらに、「研修員からの質問に答えてみよう」では、自分の考えを即座に英語にして伝えることができず、英語での受け答えの必要性を感じたようであった。また、自分の町の紹介の場面では戸惑う生徒も多く、地元を知ることの大切さにも気付いたようである。



6 生徒の主な感想

- ・外国人と話すのはやっぱり楽しいと思った。 ・うまく会話ができた時は嬉しかった。
- ・言語は違っても、ジェスチャーやアイコンタクト、英語でつながっていることを実感できた。
- ・伝えたいという気持ちがあれば、表現やジェスチャーでコミュニケーションをとれることが分かったのがとても大きな収穫だった。 ・もっと質問しておけばよかったと後悔している。
- ・聞いて理解することはできたが、意見を英語で言うことができなかったので、英語力を身につけたいと思った。 ・自分の英語力のなさを痛感する。
- ・完璧な英語の文が作れなくても、単語だけでも言ってみる、口にすることが大事だと思った。
- ・自分たちが生活している地域や県、自国のことについてもっと詳しく知ること、それを相手に伝えることが大切だということがわかった。
- ・ケニアの文化や伝統を知り、また自分が知りたかった「ケニアの医療サービス」について知ることができ、とても良い体験だった。 ・スーダンについていろいろなことを知れた。
- ・アフリカの人たちは教育を自ら求めている、ということを知り、驚いた。
- ・世界にはいろいろな人がいて、それぞれの文化に基づいて暮らしていることがよく分かった。
- ・自分の国をどれだけ大切にしているかが分かった。
- ・JICAについて知識を得ることができた。 ・より海外で働きたいという気持ちが強くなった。
- ・援助ばかりでなく、相手ができることには手を出さないという考えは良いと思った。
- ・それぞれの地域、国には長所や短所、資源、技術があって、先進国が途上国を支援するというよりも、お互いに持つものを共有する考えの方が適していると思った。